

日独交流150周年

日本への橋

2011年4月14日 ~ 5月31日

共催 : ミュンヘン防衛大学・構造工学研究所 + 図書館

図書館での展示協力に対し、州立ミュンヘン民族学博物館、ならびに本学のメディアセンターと計算センターに感謝します。

2011年3月11日の地震と津波被害を受けられた方々に、衷心よりお見舞い申し上げます。

開会式は、2011年4月14日の16:00より、大学図書館(35号館)の大講義室で行います。

プログラム

開会挨拶	図書館長 Maria Mann-Kallenborn 博士
祝辞	ミュンヘン防衛大学副学長 Michael Essig 教授
祝辞	ミュンヘン日本総領事館 Yoshie Funaki-Kobayashi 領事
独日交流サークルの紹介	ミュンヘン防衛大学学生 士官候補 Jaquenline Stüzer, Olt Thomas Angres
日本への橋	建設・測量学部 Geralt Siebert 教授
日本の伝統芸術：竹道(尺八)と書道(日本の書法)	ミュンヘン禅ハウス Dokuho J. Meindl, Kuon Misayo Kawashima Meindl

日 本 へ の 橋



明石海峡大橋（神戸から淡路に向かって、撮影：Geralt Siebert）

日本との橋は、かなり前から存在します。 2011年は、独日友好150年にあたります。

プロイセンと日本との間で、友好条約、通商条約ならびに航海条約が1861年に批准されて以来、今年は150回目の記念祭が催される1年になります。

プロイセン人の特命全権大使 Friedrich Albrecht Graf が日本と交渉し署名した条約は、両国間での外交関係だけでなく、効果的な相互交流の始まりを、記すものです。



協定書に署名時の Niefuss 教授と井上教授

ミュンヘン防衛大学も、この交流に参画します。すでに行われていた交流をより深化させるため、2009年12月10日に、大阪工業大学長 井上正崇教授とミュンヘン防衛大学長 Merith Niehuss 教授は、協定契約書に署名されました。

協定の目的は、鋼構造、耐震、コンクリート構造、およびガラス構造の分野で、お互いの知識や技術を交換し、かつ、共通の研究プロジェクトを推進させるため、両大学の教員ならびに学生が相互に訪問し交流することです。

展覧会の開会式では、構造工学研究所の Geralt Siebert 教授が共同研究について報告します。



サムライの兜

2011年3月11日以来、“日本への橋“は、より大きな意味を持つようになり、その交流には新しい広がりが見られます。未曾有の地震ならびに津波災害の後、両国の友好関係には更なる進展が見られようになりました。

独日友好記念の年にあたり、本学の図書館は、独日関係の歴史や大学間の独日交流について紹介するとともに所蔵する日本関係の書籍を展示します。

展示に関して、州立ミュンヘン民族学博物館の協力を得ることができました。この支援により、“サムライ”の甲冑や武具をお見せできます。

開催式の催しで、皆さん方には“ミュンヘン禅ハウス”において2つの日本文化を体験していただけます。